

## JR貨物 第2回交渉

### 会社「社員の状況は経営陣に伝えている」 組合「昨年比では好調に推移している。 今こそ大幅賃上げをはかるべき！」

本部は本日(2月28日)、国労闘申第9号「2025年度賃金引上げに関する申し入れ」の第2回交渉を行い、「収入動向および営業日報」について会社より説明を受けた。

収入動向の説明では、コンテナは対計画で△1億5400万円/対計画98.3%(対前年114.9%)となっており、車扱は+1,100万円/対計画100.9%(対前年106.1%)、全体では△1億4200万円/対計画98.6%(対前年113.7%)となっている。

第2回交渉では、会社は「次回考え方を示す」としつつ「趣旨説明を含め消費者物価指数が上がっていることも認識しており経営陣には伝えている。期末手当は業績の意味合いが強く春闘ではベースアップを検討するとの、これまでの考えに変わりはない」としている。

組合からは、「会社は計画との比較を前面に主張しているが昨年との比較で良くなっていることは事実である。物価上昇や自然災害、輪軸不正問題など影響はありながらも、その信頼回復に向けて日々業務で努力してきたのも社員である」と主張し、「今こそベア17,000円を支払うべきだ」と主張してきた。

この間の貨物会社の経営は、人数は半分以上となり、2000年～2017年まで18年連続「ベア・ゼロ」が続いた。その後ベア300円の実施から生活改善資金、昨年24春闘では平均1,800円まできていたが、物価高騰だけは続き、実質賃金は下がったままとなっている。

## 経営陣は社員の声に耳を傾けるべき！ 集約された署名818筆の思いに応えるべきだ！

国労が取り組んだ「労働条件改善署名」は818筆に上った。交渉の前段に会社に提出したが、若手社員をはじめシニア社員に至るまで多くの社員の思いが詰め込まれた署名であり、物価高騰が続く中、昨年もベースアップ(24春闘は平均1,800円)も実施されても実質賃金が下がり続ける中での生活改善には程遠い状況は続いている。

貨物経営陣はこれまでも様々な経営課題(鉄道事業の黒字や自然災害の影響、総合的判断など)理由に賃金抑制をはかってきたが、労働協約に「企業の発展」も「組合員の生活の維持向上」が明記されており、交渉でも「どちらも重要な課題である」との、この間の到達点を踏まえ、ベア17000円を決断するべきである！



## 貨物会社の経常利益・期末手当・ベア・設備投資の推移(組合推定)

年度	1987	1990	1996	2000	2017	2018	2019	2022	2024
社員数	12005	11459	11864	9486	5529	5406	5402	5685	5574
経常利益(億円)	59	74	△106	△26	単91/ 連104	単30/ 連45	単71/ 連89	単△63/ 連△43	
期末手当	2.1/2.8	2.3/3.1	2.4/2.55	1.72/1.72	1.6/1.64	1.73/1.7	1.75/1.81	1.72/1.62	1.61/1.62
ベア(円)	2,420円	10,503円	1,193円	0円(以降、18年連続する)	0円	300円	200円	平均300円	平均1,800円
設備投資(億円)	44	286	298	178	197	280	297	単376/ 連387	